

学校における男女共同参画 ～多様な選択を可能にする教育・学習を進めるために～

リレーエッセイ第8回は、国立女性教育会館で実施している「学校における男女共同参画研修」からジェンダーに基づくアンコンシャス・バイアスとその影響について考えます。

皆さんは、「アンコンシャス・バイアス」という言葉を聞いたことがありますか？

アンコンシャス・バイアスとは、無意識のうちにとらわれている思い込みや偏ったものの見方のことです。環境や経験を通してつくられるもので、誰にでもあります。あること自体が悪いわけではないのですが、知らないうちに言動に表れて、人を傷つけたり、組織のあり方に影響を及ぼしたりすることがあります。

一般的に他の分野に比べて男女平等だと思われる学校においても、性別に基づくアンコンシャス・バイアスが潜んでいることがあります。例えば、下のイラストは、体育祭の一場面を表したものです。このイラストを見て、男女共同参画の視点から気付くことはないでしょうか？



文部科学省次世代のライフプランニング教育推進事業
令和2年度「学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム」
ケース動画（学校行事（体育祭）より）

子供たちの係や応援団の役割分担、来賓席の大人たちの姿には、よくありがちな固定的な性別役割分担の例がみてとれます。現在、学校ではこうした傾向は少しずつ見直されてきていますが、「女性はこうあるべき」「男性はこうあるべき」または「女性とはこういうものだ」「男性とはこういうものだ」といった思い込みや価値観は、社会の様々な慣習や制度と関連しており、子供たちの進路選択や教職員のキャリア形成等にマイナスの影響を及ぼす問題も指摘されています。

子供たちが性別に関わらず、自分の能力に応じて多様な選択をすることができるよう、そして多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓いていけるようにするには、早期からの素地づくりが重要とされています。そのためにはまず学校教育において教職員が男女共同参画を推進する意識の醸成を図ることが必要であると考え、国立女性教育会館（NVEC）では、2018年度から特別支援学校を含む小学校や中学校、高等学校等の管理職・教職員、教育委員会・教育センター等の職員を対象に、「学校における男女共同参画研修」を実施してきました。

令和3年度は7月29日～8月31日に、教職員が自身の持つアンコンシャス・バイアスや固定的な性別役割分担意識に気付くとともに、学校現場に存在する男女共同参画課題を把握し、教職員自身のキャリア形成や女性管理職の育成、多様な児童生徒への対応について、男女共同参画の視点から理解を深め、解決に向けた方策を探ることを趣旨としたオンライン研修を実施し、全国から241名の参加を得ました。



令和3年度「学校における男女共同参画研修」
ワーク「ジェンダーに基づくアンコンシャス・バイアスへの気付き」より

研修では、ケース動画を用いたグループディスカッションを含むワークを行った他、オンデマンド配信の講義などを提供しました。パネルディスカッションでは、性の多様性に関する小中学校の取組や男子中高生に対するジェンダー教育実践報告、ガールスカウト日本連盟所属の女子高校生からのジェンダー平等に向けた提言を受け、これからの学校教育の可能性について考えました。

子供たちは、家庭や学校、地域の中で様々な人や価値観に触れ、それを自分の糧にしながら成長していきます。学校教育に携わる方々とともに、大人である私たち一人ひとりが社会における固定的な性別役割分担意識や自身の持つアンコンシャス・バイアスに気付き、そのことを常に自覚して生きること、それが、これからの学校や社会をよりよくしていくための第一歩になるのではないのでしょうか。

(櫻井 雅美／独立行政法人国立女性教育会館 事業課 専門職員)